

musashi color



musashi colorに込めた想い

2015年（創業58年目）、武蔵塗料は、全社員が精神的にも物質的にも幸せになり、私達の事業が世界をより豊かにすることをめざして、musashi colorを作成し、発行することにいたしました。

武蔵塗料は、日本発の塗料会社ですが、現在は多文化多人種多国籍の社員が世界中におり、世界各地で塗料の製造販売を行ない、お客様にご愛用いただいています。これは、世界各地での社員の日々の努力があるからこそ成り立っていることです。ありがとうございます。

しかし一方で、世界中に会社や社員が増えれば増えるほど、武蔵塗料の考え方は、地域の文化や習慣、言葉の違いなども加わり、全社員に自然に伝わり、浸透していくことは難しくなってきたと感じています。

そういう問題を解決するためにも、会社のあり方を整理し、この1冊の手帳に武蔵塗料の考え方をまとめました。

仕事は挑戦すればするほど、壁にぶつかることが増えていきます。人は成長すれば、そ

の成長に合わせて新しい課題が次々に出てきます。会社も同じです。持続と発展に向けて、常に課題を考え、解決していくことが挑戦であり、その結果は、社員と会社の成長になり、お客様のご満足・社会への貢献に繋がっていきます。

全社員が幸福であり、私達の暮らす社会の役に立っていくためにも、この手帳から武蔵塗料の経営哲学、仕事への姿勢、未来像、社員や仲間への想いなどを理解し、日々の仕事に活かしてください。

「百人百様」という言葉の通り、千人いれば千種類の、万人いれば万通りの仕事の積み重ねが、武蔵塗料の明日を創り、未来を築き上げていきます。

色の重なりにより生まれる美しさが人の心に喜びと感動を与えるように、私達一人ひとりの色と輝きによって、多才で多様性をもった世界的企業に成長発展できると信じています。

手帳のタイトルmusashi colorには、そんな想いも込めました。

世界中の皆さんと、よりよい会社にしていきますように。

2015年1月吉日

代表取締役 福井 裕美子

経営理念

武蔵塗料グループは、独自の発想により社会に貢献できる商品を開発・供給し、塗料納入先・原材料仕入先・株主・社員の利益を確保し、社員一人ひとりが精神的に物質的に豊かとなり誇りをもって働けるグループとする。

社是

技術と誠意に
プラスアイデア

社訓

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。
1. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、我社の仕事に興味をもたねばならない。
1. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。
1. 我々は、公私の区別をハッキリし、責任感をもたなければならない。
1. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し尊敬感情をもたなければならない。
1. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。
1. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

目 次

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。

- 1) すべての仕事はお客様に通じる …… 1
- 2) 大家族主義で取り組む …… 2
- 3) 信頼関係を築く …… 3
- 4) 共存共栄 …… 4
- 5) 顧客満足度の追求 …… 5
- 6) 売って終わりにしない …… 6
- 7) 武蔵塗料を好きになってもらう …… 7
- 8) 思いがすべて …… 8

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、我社の仕事に興味をもたねばならない。

- 1) 仕事を好きになる …… 9
- 2) 将来ありたい姿を明確にする …… 10
- 3) 塗料の力で世界を変える …… 11
- 4) 誇れる仕事をする …… 12
- 5) 探究心をもつ …… 13
- 6) どうしたらお客様に満足を買っていただけるのか …… 14

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

- 1) ベクトルを合わせる …… 15
- 2) 地域社会に貢献する …… 16
- 3) 永続する …… 17
- 4) 努力なくして目的達成なし …… 18
- 5) ブランド価値を高める …… 19
- 6) 高い目標を掲げて挑戦する …… 20
- 7) 社員は宝 …… 21

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、責任感をもたなければならない。

- 1) 自分がやらねば誰がやる …… 22
- 2) すべては自分に返ってくる …… 23
- 3) ムダをなくす …… 24
- 4) プロ意識をもつ …… 25
- 5) 使命感をもつ …… 26
- 6) コンプライアンス …… 27
- 7) 言行一致 …… 28
- 8) 目に見えない原価 …… 29

**5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し
尊敬感情をもたなければならない。**

- 1) 尊敬される存在になる…………… 30
- 2) ホウレンソウを徹底する…………… 31
- 3) ルールを守る…………… 32
- 4) 自分の役割を理解する…………… 33
- 5) 素直になる…………… 34
- 6) 声の響きは心の響き…………… 35

**6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を
適切、過不足なく処理しなくてはならない。**

- 1) 原理・原則に基づいて判断する…… 36
- 2) 記憶ではなく
記録に基づいて判断する…………… 37
- 3) 数値化する…………… 38
- 4) 公平な判断をする…………… 39
- 5) 社長だったらどう判断するか…………… 40
- 6) 常に進歩…………… 41

**7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも
無事故で仕事をしなくてはならない。**

- 1) 安全第一…………… 42
- 2) エコロジー…………… 43
- 3) 全員参画…………… 44
- 4) 危機感をもつ…………… 45
- 5) 有意注意…………… 46
- 6) 人は財産…………… 47
- 7) 地域社会との共存…………… 48
- 8) 5Sを徹底する…………… 49

武蔵塗料の生い立ち

- 創業期…………… 52
- グローバル企業へ…………… 78

巻末資料

- 武蔵塗料グループ連絡先…………… 82
- 行動規範…………… 84
- 早見表…………… 86

- 終わりに…………… 88

1. 我々は、機縁に感謝し
御得意様には親切丁寧、
誠意をもってあたねばならない。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。

1) すべての仕事はお客様に通じる

私達は縁あって取引をしているお客様に、常に満足を買っていただくことを意識しながら仕事をするのが重要です。お客様に満足を買っていただき続けることは即ち会社繁栄にも繋がります。

会社の成長と共に組織も大きくなり、そしてグローバル化すると、お客様との接点も多様になります。直接お客様の声を聴くことができる仕事もあれば、裏方にまわり陰で支える仕事もあります。お客様と直接接点がなくとも、お客様に満足していただく方法は必ずあります。必要なことは、一人ひとりが当事者意識をもち、関心をもって積極的に状況を知り、お客様により満足していただきたいという思いと行動力です。

たったひとつの確認不足、たったひとつの手違いによってお客様を失ってしまうかもしれません。私達一人ひとりのすべての仕事がお客様に通じており、会社の繁栄に繋がり、社会を動かしているのです。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。

2) 大家族主義で取り組む

私達は数多くある会社の中から武蔵塗料を選び、武蔵塗料から選ばれ入社しました。これは何かの機縁です。その機縁によって出逢った私達はいわば家族と同じです。武蔵塗料で働く全員が大家族なのです。

上司を親、部下を子供、同僚を兄弟姉妹に置き換えて接することで、お互いのよいところを伸ばし、苦手なところを補います。ときには本人のために真剣に叱ることも大事です。私達は遠慮なく本音で向き合える関係を築いていくのです。家族のようなお互いを思いやり、信じ合い、感謝し合う、どんな競合他社よりも強いチームになり、競争に勝ち抜いていきましょう。

私達は運命共同体の一員です。みんなでみんなの物心両面の幸せを追求し、全員で幸せになっていくのです。全員が幸せであり続けるよう、一人ひとりがプロとしての仕事を行ない、世のため、人のために貢献していきましょう。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。

3) 信頼関係を築く

信頼関係とは、お互いに信じ合えるようになることです。お互いが信じ合えるようになれば、最大限の効果が得られます。

社是の「技術と誠意にプラスアイデア」は、信頼関係を築くためのベースです。お客様に信頼される技術力を持ち、誠意をもって真摯に取り組み、期待を上回る製品・サービスを提供し続けることで信頼関係を築けます。

信頼関係は社内においても重要であり、部署間、部署内で信頼関係をもち続けていれば、仕事の流れがスムーズに進み、最高の結果が得られます。

信頼関係を築くことは大変なことです、失うのは一瞬で、一度失った信頼を取り戻すことは非常に困難です。だからこそ、一度築いた信頼関係を壊さぬよう、お客様や仲間や、自分自身に対し、信頼を裏切るような行動をしないように心掛ける必要があります。

常に私達の行動が信頼関係に繋がるかを意識しながら、仕事に取り組んでいきましょう。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたらねばならない。

4) 共存共栄

世界には約70億もの人々がいる中で、私達は武蔵塗料の社員として一緒に働いています。また、お客様からは、世界に何百社という塗料メーカーの中から武蔵塗料を選んでいただき取引をさせていただいています。私達は縁があって一緒に働き、縁があってお客様と取引をさせていただいているのです。

しかし、この縁に頼るばかりでは取引を継続していくことはできません。時代が変わっても、お客様に満足していただく製品を常に提供し続けていかなければ、この縁も途絶えてしまいます。つまり、お客様に満足し続けていただけてこそ、私達武蔵塗料も常に継続していける、共存共栄の関係にあるのです。

だからこそ私達は、お客様と取引できる縁に心から感謝をし、誠意をもって対応していくのです。そして、継続的にお客様に満足していただける製品やサービスを、私達がお客様と共に責任をもって協力し合いながら生み出していくことが重要なのです。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたねばならない。

5) 顧客満足度の追求

お客様から常に武蔵塗料を選んでいただくためには、他の塗料メーカー以上に優れた対応や、心温まるサービスを全員で提供し続けることが重要です。

他の塗料メーカーと同じような対応やサービスの提供をしては、お客様から武蔵塗料を選んでいただけません。お客様が何を求められているかを敏感に察知し、常にお客様の立場で考え、即行動してこそ、数ある塗料メーカーの中から、迷わずに武蔵塗料を選んでいただけるようになるのです。

このことを意識し、日々の仕事に取り組むことにより、お客様とよりよい相互関係が生まれ、お互いが成長し合える存在になり、他の塗料メーカーが追随することのできない信頼関係を築くことができるのです。

私達は、お客様と共に「モノづくり」を担う一員として心と力を合わせ、お客様のよきパートナーとなり、武蔵塗料の更なる発展のために、顧客満足度を追求していきましょう。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたねばならない。

6) 売って終わりにしない

塗料が私達の工場から出荷された後、様々なお客様のもとを通り、姿かたちを変えて、世の中の商品になります。そして、今度は私達はその商品を購入します。つまり、世の中すべての人達が、私達武蔵塗料のお客様なのです。

塗料は、塗装をしてはじめて価値が出ます。塗料を製造して出荷をしたら終わりではありません。出荷をした後から商売が始まるのです。お客様の手元に届いた後、塗料への期待が高まり、塗料はもちろん、私達の真価が問われるのです。そこでの対応により、今後の商売が大きく変わります。お客様は、塗料の良し悪しはもちろんのこと、私達の対応をも観ておられるのです。

販売活動は、営業だけで行なうものではありません。私達一人ひとりが会社の代表であり、セールスマンという気持ちで仕事に取り組むことで、武蔵塗料を使おうという気持ちをお客様にもっていただけるのです。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたねばならない。

7) 武蔵塗料を好きになってもらう

お客様に武蔵塗料を好きになってもらうためには、まずお客様に誠意をもって接することです。お客様との人間関係・信頼関係を築くために、私達がして欲しいことを、まず相手にすることから始めます。

私達が一丸となって、お客様に飲んでいただき、役に立つことができれば、お客様は私達を頼られ、武蔵塗料を好きになってもらえます。

お客様の価値観を理解し、関心事を共有できる間柄になれば、何事も相談していただけるようになります。そのようなお客様に日頃の感謝の思いをかたちにし、私達のできる最善で、飲んでいただける商品やサービスを提供するのです。そうすることで更に頼られ、武蔵塗料を好きになってもらうことができます。

私達がお客様に誠意をもって接することで、武蔵塗料を好きになってもらえるお客様を増やし続けていきたいと思います。

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたねばならない。

8) 思いがすべて

私達の言動には必ず思いがあり、思いの強さで伝わり方や行動、結果が変わります。

よい結果を得るには、まず成功した姿を思い描き、それに対してどれだけ強い思いをもてるかが、すべてなのです。その思いを強くもち続けることで、日々の行動がよい結果を得るための行動へと変化するのです。

家族や仲間、お客様と出逢った機縁に対し、感謝の思いを強くもち続けることで、それが親切で丁寧な誠意のある行動となり、感謝や誠意を、相手も感じてくれるでしょう。

思いや考えは、言葉となっても表れます。そして言葉は行動となり、行動はやがて習慣や人格、そして運命を決定づけます。何事にも強い思いをもち続けることで、自信をもって行動ができ、高い目標も達成できるのです。

思いなくして成功はありません。何事にも強い思いをもって行動し、発信し続けることで、周りにもよき影響を及ぼせる人になりましょう。

2. 我々は、我社を尊重し、
我社を愛し、我社の仕事に
興味をもたねばならない。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、 我社の仕事に興味をもたねばならない。

1) 仕事を好きになる

「好きこそものの上手なれ」と言われますが、仕事を「好き」になってこそ、最大のモチベーションになり、意欲が湧き、更に努力をしようという気持ちになります。

人生の中で、仕事をする時間は、非常に大きな割合を占めます。創業者は「仕事を飽き飽きしてやるほど馬鹿らしいことはない。何の信念もなく、ダラダラと時間を過ごす、こんなことでどうしてよい製品ができれば。会社も損、自分も損である」と言っています。だからこそ、「仕事に興味をもたねばならない」と社訓にもあります。

興味とは、面白いと思って心がひかれ、好きになることです。

仕事を好きになるには、日々創意工夫を重ねていくことが大事です。そして、成果が上がれば、仕事が楽しく、面白くなっていきます。面白くなれば、仕事に打ち込み、またよい成果が生まれ、この繰り返しによって、仕事を更に好きになっていけるのです。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、 我社の仕事に興味をもたねばならない。

2) 将来ありたい姿を明確にする

人は誰もが何らかの夢や希望や目標を抱いて、それに向かって生活をしています。会社も経営理念というかたちで、その実現に向かって活動をしています。

会社を愛し、自分を愛することとは、自分の仕事に関心を持ち、真剣に取り組むことです。何の信念もなく時間の経過を待っているようでは、やりがいなど感じられません。

信念をもって仕事に取り組みれば、関心をもって仕事に打ち込み、立てた目標に向かって努力することができます。目標を設定する上で大切なのは、目先のことだけではなく、将来を見据えることです。会社がめざす目標を踏まえ、将来自分のありたい姿を明確にすることが必要です。

ありたい姿を明確にした上で、ブレない姿勢で日々の仕事に打ち込むことが大切です。それを継続することにより、自分だけでなく、会社の成長発展にも寄与し、その結果、仕事にやりがいを感じることができるのです。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、
我社の仕事に興味をもたねばならない。

3) 塗料の力で世界を変える

私達は、世界各地で塗料を製造・供給することにより、社会に貢献しています。また、塗料のもっている力で世界を豊かにしていこうともしているのです。

私達が製造・供給している塗料は、様々なモノに色彩を与え、表情を演出することができます。また、長い期間モノ自体を保護・維持できるような特殊な機能を与えることもできます。塗料は世界を豊かにするために、様々な分野で役立ち、人々の心も豊かにする力をもっているのです。

私達は世界をより豊かにするために、これからも色彩や特殊な機能をもった塗料を更に追究し続けていくのです。

世界が必要とするもの、私達の人生を豊かにするもの、子供達の未来を素晴らしくするものをつくるために、塗料の力を信じて、今取り組んでいる仕事に全力を尽くしましょう。その結果、塗料の力で世界を変えることができるのです。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、
我社の仕事に興味をもたねばならない。

4) 誇れる仕事をする

塗料に携わる私達の仕事は、世の中に塗料を供給することによって、人々の心を明るくし、豊かな社会創りへの一助を担っています。

そして、お客様の満足を得るために、また自身の満足を感じられるように努力を惜しまず、一所懸命に仕事をしています。誠心誠意心を込めた仕事はお客様に感動を提供します。

お客様から信頼をしていただき続けるには、お客様のご要望に耳を傾け、常に最大限のパフォーマンスをご提供できるようにしなければなりません。そのために、他社には真似のできないアイデアと、他の人には負けない熱意とスピードをもちましょう。きっとお互いに信頼のおける強い絆が生まれるはずです。

そして、その仕事は、お客様はもちろん、家族に、同僚に、そして自分自身に胸を張ることのできる、誇りをもった仕事に生まれ変わるのです。切磋琢磨を繰り返し、正々堂々、自分の仕事に誇りを持ち、最高の満足を提供し続けていきましょう。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、
我社の仕事に興味をもたねばならない。

5) 探究心をもつ

探究心をもつとは、物事の意味・本質について深い知識を得たい、原因を解明したいという気持ちが高いことを表します。

同じ話、同じ仕事をしていても人によって理解が異なることがあります。興味や捉え方に差異があり、経験にも違いがあるからだと言えるでしょう。

興味をもったことに対して、素直に考え、解明しようと探究することは、特別なことをしなくてもできるのです。その行動が習慣となれば、いろいろなことが自然に吸収でき、最終的に探究心のない人と大きな違いが顕著に現れてきます。私達一人ひとりの行動が会社の社風となり、みんなから愛され、尊敬されることにも繋がります。

当たり前に行っていることに満足せず、何事にも関心をもつことはもちろん、常に探究心を強くもって、積極的に日々いろいろなことに好奇心をもち、新しい仕事に挑戦していきましょう。

2. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、
我社の仕事に興味をもたねばならない。

6) どうしたらお客様に満足を買っていただけるのか

私達は、常にお客様への感謝の気持ちを忘れることなく、安心してお使いいただける製品造りを心掛け、適切過不足なくお客様からの要望にお応えし、真心のこもった仕事を行なうのです。

私達の社である「技術と誠意にプラスアイデア」は、お客様に納得いただける、他とは違う武蔵塗料らしいサービスを、いつも提供し続けていくことが必要であるということを示しています。

たとえ、お客様からの具体的な依頼や要望がなくとも、お客様の気持ちを察し、「武蔵に頼むと違う」と感動をしていただけるようなサービスが、いつも提供できるよう配慮をしていきましょう。

私達一人ひとり、それぞれの担当する仕事で、いつもお客様の立場で考え、アイデアを膨らませ、期待以上の成果を上げる努力を惜しまず、心のこもったプロとしての仕事をしていくのです。

3. 我々は、我社の目的を理解し、
その目的達成のために
献身しなくてはならない。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

1) ベクトルを合わせる

会社の目的を達成するためには、まず全員が目的を理解することが重要です。目的を理解し、目的達成のために全員で邁進していくことが、ベクトルを合わせるということです。

どんなによい目的があっても、全員が理解せず、バラバラに行動してしまつては力が分散してしまいます。目的を達成するには、一致団結することが大切です。

お互いの理解や協力があつてこそ一致団結できます。人と人との繋がりが非常に大切なのです。そのためには、様々な人に、現状を的確に発信し続けることが重要です。これを怠ると、中途半端な情報だけが伝わつてしまい、理解や協力を得られず本来やるべき方向性を見失つてしまうからです。

ベクトルを合わせて邁進するために、武蔵塗料の全員が一致団結していきましょう。ベクトルを合わせれば、1+1が3にも4にもなります。目的を理解し、お互いを理解し、相乗効果を発揮していきましょう。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

2) 地域社会に貢献する

企業が持続し発展していくには、社会から有益な企業だと評価され、支持されることが重要です。だからこそ企業は、社会貢献活動に取り組み、全社員の意識向上を図り、その参画を推進していくことが重要なのです。

私達は、地域を愛し、地域と共に歩む企業市民として、安心して暮らせる社会づくりに努め、工場運営、廃棄物処理等からの環境整備にも積極的に取り組み、法令遵守・情報公開を徹底していきます。環境にやさしい製品を開発し、雇用を創出し、働きやすい職場整備にも取り組みます。また、納税義務を果たし、地域社会発展に役立てていただけるように取り組むのです。それが私達の社会貢献活動なのです。

一人ひとりが社会貢献活動の意義をしっかりと理解して実践し、地域社会からの日頃のご支援に感謝し、その気持ちを忘れることなく、継続して活動を繰り広げていくことこそ、私達がめざす地域社会への貢献なのです。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

3) 永続する

私達武蔵塗料が、「永続すること」によって、会社の仲間や家族だけでなく、塗料を買ってくださるお客様や当社を応援して下さる株主の方々、そして地域社会に貢献することができるのです。

もし、会社が倒産してしまったら、社員とその家族は路頭に迷い、お客様へ塗料の供給ができなくなるばかりか、多くの方々に多大なるご迷惑をお掛けすることになってしまいます。

ダーウィンの進化論にもあるように、時流に適応し、絶えず変化し続けてこそ、永く生き続けることができます。

世の中の変化に適応していくことこそ、私達の成長です。人は成長を感じたときにやりがいを感じるものです。

先輩方が変化に適応させながら成長してきたこの武蔵塗料を、私達が更に進化・発展させ、関わるすべての人が幸せになるよう、永続させていきましょう。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

4) 努力なくして目的達成なし

夢や目標に向かって挑戦するときこそ、私達が成長できるチャンスです。失敗して悔しい思いをしたら、原因を突きつめ、次こそはよい結果を出すように努力をするからです。

自分の努力が実を結び、お客様や会社、世の中の発展に繋がったとき、私達はやりがい、喜びを感じます。この喜びを求めて、次なる挑戦、努力への意欲が増します。これこそが、目的を達成させる原動力になるのです。

どんなに大きな夢や目標も、一步一步、一日一日の、努力の積み重ねで達成できます。そして、その努力に少しのアイデアをプラスすることで、今までにはない大きな成果を得ることができるのです。

努力をせずによい結果を出そうと思っても、簡単にはいきません。目的を理解し、自分にはどのような結果が求められているのかを考えて仕事に取り組みましょう。そして、誰にも負けない努力によって得られる格別の喜びをみんなで分かち合いましょう。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

5) ブランド価値を高める

お客様が求められている武蔵塗料の価値とは何でしょうか。

この問いに対する答えは、「お客様が何を武蔵塗料に期待されているか」ということを理解することができる、イメージがしやすくなるかもしれません。人は期待以上のことを相手から提供されると感動をして喜び、相手に感謝をします。逆に提供されたものが期待以下だとがっかりして、ときには相手に怒りさえ感じることもあります。

私達は、それぞれの仕事において、お客様が期待される以上の価値を提供できるように、日々向上心をもって努力を続けることが必要です。一人ひとりが、この高い価値を生み出すことによって、ブランド価値を高めることができるのです。

私達は、武蔵塗料のブランド価値を高める努力を重ね、より多くのお客様から迷わずに武蔵塗料を選んでいただけるようにしていきます。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

6) 高い目標を掲げて挑戦する

武蔵塗料の使命は、塗料を製造・供給し、社会に貢献することです。そのためには、私達が常に何をめざしていくのかという目標を確認して、積極果敢に挑み続けることが必要です。

登山でも、小さな丘に登ると、ヒマラヤに登るとでは、知識や技術の修練、チーム編成にしてもレベルが異なるように、まず、どの山に登るかを定めることが大事なのです。

私達の目標は、決して小さな丘ではなく、困難や失敗も数多く待ち受けている高い山の頂上を極めることです。中腹の景色で満足してしまい、上を見ることなく立ち止まっていたら、後続に追い越されるだけではなく、その山の頂上を極めることなどできません。

自分の夢に向かって頑張っている人は常に輝いているように、私達武蔵塗料も、全員で決めた高い目標に挑戦し続けることで、更に輝いていくのです。頂上の景色を夢見て、全員で一致団結して頑張っていきましょう。

3. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。

7) 社員は宝

武蔵塗料は、「高い技術の塗料を製造販売して社会のお役に立つことは、自分達の人生をより豊かで実りあるものにできる」という創業者の思いを日々の仕事で形にし、世界中に多くの仲間をつくり、塗料の色彩と機能で世界を豊かにしている会社です。

創業当時は、塗料製造販売で幸せになるぞという思いだけで、設備も信用も販路も技術もありませんでした。それでも、必死の努力を重ねて、会社を成長させ続け、今の武蔵塗料を創ってきました。これは、全員が武蔵塗料という会社に、生命を吹き込み、育み、数多くの失敗や成功を繰り返し、成長させてきた行動の積み重ねの結果です。

私達には、思いを現実に変える力があります。その思いの主は、自分自身であり、武蔵塗料に集う社員一人ひとりです。

どのような思いも形にすることができる私達は、武蔵塗料の輝かしい未来を創る夢・希望の源であり、宝なのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、責任感をもたなければならない。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、 責任感をもちなければならない。

1) 自分がやらねば誰がやる

お客様に感動していただく仕事をするには、常に一人ひとりが「自分がやらねば誰がやる」という情熱をもち、行動することが大切です。

ひとりでも「大変だからやりたくない、誰かがやるだろう」という気持ちで仕事をする、その気持ちは周りに伝わり、組織全体のやる気を低下させます。たったひとりの後ろ向きな言動が、お客様の求める最高の答えを導く妨げになってしまうのです。

お客様が求める最高の答えを導くには、一人ひとりが「自分がやらねば誰がやる」という当事者意識をもち、お客様が求められていることに対し、責任をもって取り組むことです。その結果、お客様の感動へと繋がります。

会社は組織で動いています。自分ひとりさえよければといった利己主義的な考え方をもち人は「仲間」ではありません。自分の果たすべき役割や使命をきちんと認識し、責任感をもって仕事をする、お客様の利益となり、会社全体の利益になるのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、 責任感をもちなければならない。

2) すべては自分に返ってくる

私達が携わる仕事には、すべてにおいて、お客様が存在します。社外では原材料メーカー様やユーザー様、社内では前後の工程に関わる方々がお客様です。心を込めて仕事することで、お客様に感動していただき、その結果が私達の幸せへと繋がるのです。

「たらい水の法則」というものがありますが、丸い容器の中で、向こう側に水を押し、それが回り回って自分のところへ戻ってくるというものです。

これは自分の日々の言動や仕事に対する姿勢にも当てはまります。いい加減な姿勢で仕事をすれば、やがてそれがクレームへと繋がります。心を込めた丁寧な姿勢で仕事をすれば、お客様からの感謝として自分に返ってくるのです。

すべてはお客様のために尽くすという姿勢で取り組んだ結果は、私達自身の幸せに繋がっていくことを常に自覚し、日々の仕事に打ち込んでいきましょう。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

3) ムダをなくす

「どうすればムダをなくせるのか」という意識と行動が原価低減と会社の利益への貢献に繋がります。常に私達は、それを自覚しながら、自分の仕事に責任感をもち取り組んでいくのです。

目に見てわかる「お金」や「モノ」、目に見えづらい「時間」や「効率」についてムダがないか見極めながら仕事を進めていくことが重要です。

その判断基準は会社にとって本当に有益かどうかなのです。「自分や自部署だけの我が儘ではないのか」「それは本当に生きたお金なのか」「生きた時間なのか」と自問自答を繰り返すのです。そのような考え方で行動することによって、一つひとつ小さいことを積み上げてこそ、会社に大きく貢献していくことができるのです。

武蔵塗料を更に成長発展させていくには、ムダをなくすことから始まるといっても過言ではないのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

4) プロ意識をもつ

私達は、それぞれのもち場、立場のプロであらねばなりません。仕事に取り組む上で、プロ意識をもつことは非常に大切です。プロは、対価を得るだけの価値を発揮できる人であり、私達はプロの集団になるのです。

プロは、周りを惹き込み、人々の期待を越え、魅了することができます。どのような環境下でも期待以上の成果を上げる人がプロです。それは、陰で人の何倍もの努力をしてこそそのものです。妥協をせず、弱音を吐かず、どんなに高い壁も乗り越える、強い信念をもっているのがプロです。

お客様や会社の仲間が観ているのは、私達の創る塗料だけではありません。私達一人ひとりの仕事ぶりも観ておられるのです。

プロ意識をもって、真剣に仕事に取り組むことで、仕事が楽しくなり、自分の仕事に自信と誇りをもて、責任感ももてるようになります。そして、自分の生き方にも誇りをもてるようになるのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

5) 使命感をもつ

何かをやり遂げようとするとき、それが難しいことであればあるほど、強い念おもいが必要になります。その念おもいが強ければ強いほど、目標が達成できるのです。目標達成のために、決して諦めずに行動し続ければ、念おもいはやがて使命感となるのです。

使命感をもてば、仕事を楽しく、やりがいをもって行なえます。また、受身の姿勢ではなく、常に問題意識をもち、自発的に物事を考え、計画性をもって行動していくことができるようになります。

業務領域と自分の役割を理解した上で、仕事の内容は限定せず、積極果敢に挑戦することが大切です。仕事に限界はなく、仕事の範囲は自分で決めるものではありません。範囲を広げ続けることで成長でき、新たなことに挑戦し続けていくことで、自分の想像を超える成果を上げることができるのです。

常に使命感をもち、積極的に挑戦することで、成長し続けていきましょう。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

6) コンプライアンス

働くこととは、ただ単に会社に属するということだけではなく、仕事を通じて社会的責任を担うことが求められます。

武蔵塗料は、お客様の要求を満たす製品・サービスを提供することで対価をいただき、そこから得た利益を株主・社員・取引先並びに社会へ還元しています。

ルール遵守じゆんしゆは、世界情勢を見ても日増しに要求が厳しくなっています。世界中で事業を展開している武蔵塗料では、各国の法令遵守はもちろんのこと、コンプライアンスの徹底をしていくことが今後、益々重要になっていきます。

武蔵塗料では、環境負荷への配慮を必要とする危険品も多数保有しており、厳しい視線が注がれています。社会の一員として、法令遵守・環境配慮の継続実践が社会的信用を高め、会社の発展に繋がるのです。私達一人ひとりのコンプライアンスへの取り組みが会社の信用、今後の成長発展を決定づけるのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

7) 言行一致

仕事に取り組む際には、言っていることと、行動が伴わなくては信頼をなくします。根拠もなく「できます」と言って、お客様や社内の仲間に期待をさせておいて、後から「できませんでした」と言うことがあっては、信頼をなくしてしまいます。信頼をなくせば仕事も失い、会社にとっても自分にとっても大きなマイナスとなってしまいます。

かといって、初めから「できません」とばかり言っていれば、誰からも頼りにされなくなり、結果的にはこれもマイナスとなってしまいます。

大切なことは、「できます」と責任をもって言い切れるよう、日頃から専門技術を磨き、問題解決能力を高めることです。「できます」と言った限りは、やり切るのです。

お客様や社内の仲間との約束を守るこそ「言行一致」なのです。約束をした限りは絶対に守るという姿勢がお客様や社内の仲間からの信頼を得るために重要なのです。

4. 我々は、公私の区別をハッキリし、
責任感をもちなければならない。

8) 目に見えない原価

原価とは、製品を生産、販売するのに必要なすべてのものを金銭に換算したものです。原価意識とは、どのようなものにもお金がかかっているということを考えて仕事をすることです。

原価には、目に見えるものと見えないものがありますが、目に見えない原価とは、時間のことです。

時間をムダにしないということ、「早く」ということだけを考えがちですが、時間を有効に使って原価低減に貢献するためには、お客様が求められていることを、正確かつ迅速に、安く・安全に実現することが必要です。

私達は、目に見えない原価である時間を有効活用して利益を確保するのです。それが、任せられた仕事に責任をもつということに繋がります。計画を立てて、確実に実行する習慣を全員が身につけていけば、全員で「目に見えない原価」を削減していくことができるようになるのです。

5. 我々は、規律命令を重んじ、
上級者に対し尊敬感情を
もたなければならない。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し
尊敬感情をもたなければならない。

1) 尊敬される存在になる

私達は、機縁によって武蔵塗料で働いています。その中で、人生の向上をめざして努力をし、仲間から尊敬される存在になることが必要です。

優れた能力や知識をもっている人だけが、上級者や尊敬される存在ではありません。人格の向上を図り、統率力をもち、推進力をもっている人が、上級者として人の上に立つのです。

尊敬される存在になるためには、言葉と行動が一致している「言行一致」と、最初から最後まで考えを貫き通し矛盾しない「信念を貫くこと」が大切です。常に自分に厳しく、自分を律することで、周りの仲間が尊敬の念を抱いていくのです。

尊敬できる人に多く出逢い、自分もそうなりたいと努力をする。そんな自分もまた、人から尊敬される存在になろうとする。その経験が多ければ多いほど、会社も自分も更に大きく成長できるのです。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し
尊敬感情をもたなければならない。

2) ホウレンソウを徹底する

ホウレンソウとは、職場で仕事を円滑に進めるために欠かすことができない「報告・連絡・相談」のことです。

報告とは、上司・部下に経過や結果を知らせることです。特に悪い報告ほど早く報告することが重要です。悪い報告を早くすると、ピンチをチャンスに変えていくことができるのです。

連絡とは、関係者に必要な情報を伝えることです。関係者が聞いていない、知らないという事態は、完全な連絡不足です。

相談とは、悩みや不安を解消するためのアドバイスをもらうことです。ひとりで悩み込まず、上司や先輩に相談し、よきアドバイスをもらって悩みや不安を解消しましょう。

ホウレンソウが徹底できている職場では、コミュニケーションがとれていて、人間関係がよくなるものです。そして、一致団結して取り組めるようになります。私達はホウレンソウを徹底して、ミスやトラブルをなくして、仕事の品質と効率を高めていくのです。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し尊敬感情をもたなければならない。

3) ルールを守る

ルールを守るということは、そのルールによって成り立っている世界に参加する資格を得ることです。例えば、野球では「三振でアウト」のルールを守れない人は野球に参加できません。

これは会社にとっても重要なことであり、ルールがあるからこそ全員が安心して働くことができるようになるのです。

原点は、ルールを守ることにあります。ただルールを守るだけではなく、そのルールがなぜあるのかをよく理解し、守る努力をすることと、守れない人に対して注意することが重要です。

全員がルールを守る姿勢が安心して働ける環境をつくります。また、もし環境が変化し、私達を取り巻く状況が変わったとき、全員が納得できるルールに変えていくことも必要なのです。

武蔵塗料では、全員がルールを守り、お客様や世の中から信頼をしていただくのです。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し尊敬感情をもたなければならない。

4) 自分の役割を理解する

私達は組織で仕事をしています。組織には、私達が有効的に機能するための規律があり、それに基づいて行動しています。その規律命令を重んじ、力強い組織を創り出し、会社の目的達成に邁進するのです。

組織において、仲間に対し、常に適切な報告、提案を怠らず、適切なやりとりがなくてはなりません。建設的な意見の交流がされることで、それはひとりよがりではなく、組織の力となり、大きな成果を生むのです。

また、私達は自らの役割を果たすために能力を高め、人格を磨き、豊かな人間性のもち主となるよう、常に努力を怠ってはなりません。私達一人ひとりの努力が強固な組織の基盤を創るのです。

私達は、常に全体最適を考えながら、一人ひとりに任された役割というものを十分に理解した上で日々行動し、お客様に飲んでいただけるような最大の成果を求めて、いつも仕事に取り組んでいくのです。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し
尊敬感情をもたなければならない。

5) 素直になる

初めての仕事をするとき、誰も最初にご
こへ行けばよいのか、何をすればよいのかが
わからないでしょう。初めは上司や先輩方に
教わりながら、仕事を覚えていくものです。

人の意見を聴くとき、何かを教えてもら
うとき、とても重要なのは、素直になるとい
うことです。素直とは、まず受け入れるとい
うことです。せっかく周りの方々からアドバ
イスをいただいても、聴く耳をもたずにシャ
ットアウトしている人は成長できません。こ
れは新入社員に限らず、ベテラン社員を含む
全員にあてはまることです。

一人ひとりが素直な気持ちで何事も受け
入れていけば、学ぶことや気づくことを増やし
、会社全体も成長していけます。自分自身と真
摯に向き合い、素直な気持ちになれば、みん
なからの信頼も得ることができるでしょう。

これからの武蔵塗料の発展に向けて、一人
ひとりが素直になり、みんなからのアドバイ
スを受けとめ、成長し続けていきましょう。

5. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し
尊敬感情をもたなければならない。

6) 声の響きは心の響き

人と人との繋がりや挨拶は挨拶から始ま
ります。人と人との信頼関係は心と心の交
流から生まれます。普段、何気なく使っ
ている言葉は、コミュニケーションをと
る上において重要で、その表現方法によ
っては、自分や会社の印象まで大きく影
響を与えるものです。

「たった一言が人の心を傷つけ、た
った一言が人の心を温める」という言葉
があります。相手に言われた何気ない一
言で深く傷ついてしまったり、自分が
落ち込んでいるとき、ちょっとした一
言がすごく励みになり、救われたり
します。

自分が発した声は、相手の心に響き、
人と人、心と心を通わせるきっかけとな
るものです。常に周囲に関心を持ち、こ
ちらから素直に気持ちを伝えていきま
しょう。自然に声をかけられる人間関
係が創れるよう、日常の習慣として身
につけましょう。それによってお互
いの心のふれあいが生まれ、よりよ
い人間関係、信頼関係を築いていける
のです。

6. 我々は、科学的にものを考え、
価値判断を適切、過不足なく
処理しなくてはならない。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

1) 原理・原則に基づいて判断する

私達は仕事をする上で、日々様々な判断をしなければいけない場面に出くわします。企業として社会的信用を得て、公明正大に事業を継続するためには、そのときの感覚や損得ではなく、物事の本質を見極め、常に「人間として何が正しいか」という原理・原則に基づいた判断をしていくことが重要なのです。

私達が仕事の中で、第一に優先すべきなのは当然、原理・原則です。ところが、いつの間にか原理・原則から逸脱したものが常識となってしまう、それゆえに困難にぶつかることもあるでしょう。そのようなときには視野を広げ、「人間として何が正しいのか」という原理・原則で判断をするように心掛けていきましょう。

時代と共に、価値基準も変わりますが、原理・原則に基づいた正しい判断によって生まれた成果は、社会的な信用へと繋がり、武蔵塗料が更なる発展を遂げる中で重要な財産となるのです。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

2) 記憶ではなく記録に基づいて判断する

業務を進める上で、記憶に基づけば効率的で時間短縮ができるように思いがちです。しかし、記憶に基づいた仕事は、不確実になりがちで危険です。

物事をすべて正確に記憶することは難しく、記憶には曖昧な面があることを認識しておかなければなりません。そのため、業務の重要なポイントや判断の過程、結果などは記録を取り、確認しながら進めることが大切です。

また、経験を記録してこそ自分のものにしていくことができます。更には、記録に基づく仕事は、根拠が明確であるため、信頼性の高い仕事になります。よって、どのような仕事も、記録に基づいて正確に進めていくことが重要です。

私達は、記録に基づき業務を適切に進めることを習慣にし、情報を共有して、誰が担当しても正しく進められるようにするのです。そして、絶えず記録を見直し、更に仕事のレベルアップを図っていきましょう。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

3) 数値化する

数値化することは、適切な判断を下すためにとても重要です。

例えば、新しい事業に挑戦する場合、市場規模が大きいとか将来性があるという情報だけでは正しい判断ができません。市場規模が何億円、成長率が何%という数値化された情報が必要なのです。更に、競合他社が何社あって、利益率がどのくらい見込めるのかといった多くの数値化された情報があつてこそ、誰もが客観的に考えることができます。

数値化することは、決して難しいことではありません。例えば、料理の評価でも、人間の感覚は数値化が難しいと思われがちです。しかし、アンケートという手法で、美味しい、まずいといった評価ではなく、点数で評価してもらい、その理由を書いてもらえば、料理に対する評価は数値化され、他の料理との比較ができ、課題点も見つかります。

私達は、数値化するという習慣を身につけ、仕事に活かしていきましょう。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

4) 公平な判断をする

私達は、様々な場面で判断をしています。判断をする際の状況は常に流動的であり、いつも同じ状況や条件であるとは限らず、判断に迷うことも多々あるでしょう。そんな中、何を基準に判断をすればよいのでしょうか。

判断をするとき、人は往々にして自分の利益や主観、感情を優先させてしまう傾向があります。しかし、このような自分本位な判断は、全員にとって最高の答えを導く妨げになってしまいます。また、利己主義的な考えは、全員のやる気も低下させてしまいます。

ここで大切なのは、「公平無私」の精神で判断をすることです。公平無私とは、自分の利益や主観、感情を外し、公平であるということです。

常に、客観的に正しいか、人間として正しいか、考えに偏りはないかを基準にして判断をしていくのです。公平な判断をすることで、物事を適切に、過不足なく正しく処理することができるようになるのです。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

5) 社長だったらどう判断するか

私達は、日々の仕事の中で、様々な判断をしています。その判断によっては仕事の成果が大きく変わることがあります。だからこそ、判断には責任をもたなければなりません。

判断を下すときに注意しなくてはならないことは、その判断が後々にどのような影響を及ぼすかを深く考えることです。目先の結果だけを気にしすぎて、狭い視野で判断をしまうと、そのときはよい結果になっても、長期的には不利益が発生してしまうかもしれません。

そして、もうひとつ重要なことは、時間を掛け過ぎないということです。必要以上に時間を掛けてしまうと勝機を逃がすことになってしまうからです。

判断をすることは、責任重大です。社長だったらどう判断するかと想定してみれば、大所高所から全体を観ることができ、適切な判断ができるようになるのです。

6. 我々は、科学的にものを考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。

6) 常に進歩

私達を取り巻く環境は、常に変化を続けています。様々な変化の中で私達は永続しなくてはなりません。そのために、私達は常に価値判断を適切に変化させなくてはなりません。

地球の歴史においても、地球環境の変化についていけない動物が絶滅していったのと同様に、企業においても市場の変化についていけなくなり、社会から消えてしまった企業は過去に多数あります。そのような企業は、企業としての価値判断を市場の変化に合わせて、柔軟に変化させることができなかつたと言えるでしょう。

価値判断を柔軟に変化させる際には、感情的に考えたり、根拠のない勘などに頼ったりせず、科学的に考えることが重要です。

私達は、前例にとらわれることなく、絶えず変化に適應できるよう科学的にものを考え、価値判断を適切に過不足なく変化させ、常に進歩し、その結果、どのような環境下においても永続していくのです。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

1) 安全第一

私達は、塗料の製造販売を行なっています。安全第一なくして企業経営は成り立ちません。特に、私達は、一歩間違えれば非常に危険な物質を取り扱っています。

そして、常に危険や災害と隣り合わせの環境で仕事をしています。また、僅かな不注意や無理によって、怪我をしてしまう可能性があることを忘れてはいけません。

怪我や事故は、慣れてきたときや、忙しく慌しいときに、気の緩みや確認不足によって起こることが多くあり、油断大敵です。誰でもヒヤッとしたことがあるでしょう。だからこそルールを守って、その危険の芽を摘み取り、自ら安全を維持していくのです。

私達は、同僚やお客様を傷付けたり、地域社会に迷惑をかけたりしては絶対になりません。一人ひとりが安全意識をしっかりともち、怪我や災害に対する知識と重要性を認識し、事故を未然に防ぐための注意力を高め、安全第一の職場環境を全員で創り上げるのです。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

2) エコロジー

武蔵塗料が事業を行なう上で、環境問題を無視することはできません。私達が製造販売している塗料という商品は、取り扱い方を誤ると地球環境を破壊しかねません。

日々の仕事において、事故を起こすことなく安全で適正に製造すること、及びその支援をすることが、地球環境の保全へと繋がります。

また、人にやさしく地球にやさしい商品を開発することで、お客様の商品に、より高い付加価値をもたらすだけでなく、人間や地球環境への負荷を低減することにも繋がります。

更には、私達一人ひとりが限りある地球のエネルギー資源を大切に使うことで、エコロジーな会社になることができます。

私達一人ひとりが安全に関する法令を遵守し、エコロジーを意識していく努力が必要です。地球の未来のため、子供達の未来のため、地球環境を大切にすることを原点として、エコロジーに取り組んでいきましょう。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

3) 全員参画

私達は、日々よりよい塗料を安定して製造・供給するのです。そのためには、まず武蔵塗料の一員である私達が、安全な環境で安心して仕事に取り組めるように、全員でその方法を考え、話し合い、常に一丸となって行動し続けることが必要です。

働く環境は、会社や部署、チームなどの集まりによって生まれます。どのような環境になるかは、特定の人達によって創られるものではなく、そこに集まっている一人ひとりの意識や考え方によって変化するのです。

安全を意識せず、自らが何も考えないまま集まりに加わり、単に行動を共にするだけの人がひとりでもいれば、全員が常に安心して仕事に取り組める環境など創れません。

武蔵塗料は多くの人の集まりで成り立っています。そこに属するだけではなく、私達一人ひとりが自ら考え、その集まりに強い意志をもって全員参画することによって、初めて安全に働く環境を創っていただけるのです。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

4) 危機感をもつ

武蔵塗料は、塗料を製造販売していますが、塗料原材料をはじめ、扱っている部材の大部分は危険物です。危険物は、取り扱いに細心の注意を払わなければ、些細なことをきっかけに、類を見ない大惨事を起こす可能性を含んでいます。

万が一事故を起こした場合、会社は機能が完全停止し、私達やその家族の生活に至るまで、すべて変わってしまいます。影響はそれだけに留まらず、近隣にある公共施設、住宅等まで破壊しかねません。

危険は、生産活動に限ったことではなく、日々の活動の中にも潜んでいます。どの職場においても、日々危険が隣り合わせにあるという想定の下、気を抜くことなく、危機感をもち続けて注意を払って、業務に向き合っこそ事故を防ぐことができるのです。

事故は一度起こったら、取り返しがつきません。危機感をもって事故を起こさない仕事を継続していきましょう。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

5) 有意注意

私達は日々の仕事の中で、常に安全を意識して仕事に取り組まなければなりません。もし、事故や火災などが起きてしまったら自分が働けないばかりか、家族や同僚、お客様、地域社会にもご迷惑をお掛けすることになってしまいます。

安全に仕事を進めていくためには、常に「有意注意」することが必要です。「有意注意」とは、意をもって意を注ぐ、即ち目的をもって真剣に意識や神経を対象に集中させるということです。例えば、音がして反射的にそちらをパッと向くというのは無意識の生理的な反応なので、「無意注意」です。「無意注意」では、事故や災害を防ぐことはもちろん、安全を確保することさえも難しくなってしまいます。

武蔵塗料の誰もが、無事故・無災害をこれからも永續させていくために、みんなで安全に対する「有意注意」を習慣化して、日々の仕事に取り組んでいくのです。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

6) 人は財産

会社は組織で行動しますが、その組織を動かすのは私達一人ひとりです。会社が発展するかは社員の意識と行動次第です。人は会社の財産であり、「人財」とも表す、かけがえのない存在なのです。

塗料の製造販売をしている限り、お客様のために品質向上に取り組むことはもちろん、社員、近隣の人への安全にも真剣に向き合わなくてはなりません。

無事故や環境保護を当たり前とし、近隣や社会からも受け入れられてこそ、武蔵塗料を成長発展させていけるのです。

私達一人ひとりが常に安全意識を働かし、安全と品質の両輪をまわしていき、武蔵塗料を更に前進させていくのです。私達が会社を引っ張っていることを忘れてはなりません。

私達は、個々の能力向上に努め、会社の発展や安全にどう貢献すればよいかを考えていきましょう。それは自分の存在価値を高めることにも繋がるのです。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

7) 地域社会との共存

私達武蔵塗料が地域社会と共存していくためには、ただ単に商品やサービスを提供するだけではなく、私達が事業を行なっている国や地域の発展に貢献し、その地をより豊かにし、より高い付加価値をもたらしていくことが必要です。

地域社会との良好な関係の構築に努め、地域社会の一員として、法令や社内規定を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業倫理に則った行動をしていくことで、地域社会との信頼関係を得られるのです。

そのために、私達は常に安全意識を働かし、無事故で働きやすく、健康的な職場環境の維持・向上に努め、災害のない事業活動を行なうことで、事業を永続させ、雇用創出や納税を通じて、地域社会に貢献を果たしていくのです。

よき企業市民としての責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を行ない、地域から信頼され、愛される会社であり続けていきたいと思います。

7. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

8) 5Sを徹底する

5S活動とは、5つのS（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を行ない、職場環境の維持改善を図る活動です。

職場では会社の物品は全員で共有して使用しています。もし、勝手に自分の近くに物の置き場所を変えたら、他の人が使うとき、探す手間が発生します。また、通路にシンナー缶を放置した場合、歩くのに支障が出るばかりか、その缶につまずいて怪我をしたり、シンナーがこぼれて、室内に溶剤が充満したり、火災にまで発展する恐れがあります。

もし、お客様が職場を見学に来られた際、職場が整理整頓されていたら、その会社はしっかり管理されている会社であるという印象をもたれます。

5Sを徹底することは、私達が働きやすい環境を創るだけではなく、仕事の効率や品質の向上にも繋がり、会社の価値をも高めます。一人ひとりが5Sの意義を理解し、高い基準で5Sを徹底していきましょう。

～ 武蔵塗料の生い立ち ～

創業期

◇創業者の言葉

～社員の皆さんへ～

- ・ 目標に向かって、自ら成長への道を歩み続ける人
- ・ 自らの仕事に対しては、誰にも負けない成果を生み出す人
- ・ できないという理由を探す前に、できる方法を考え出す人
- ・ 若さを失わず、勇気と信念をもって行動する人
- ・ 結果を謙虚に反省し、次の向上をめざす人
- ・ 新しい時代に、常に自己を適応させていける人

私はあなた方が、このような社員であって欲しいと願う。

1958年
創業者 福井 敏雄

◇創業と社名の由来

昭和33年6月、集った6人の男達の顔は晴れやかだった。我々の理想の会社を創ろう、その一念のもとに盟主福井敏雄の蒲田の家へ、その下準備のために集ったのは、福井の他に、佐伯栄三、秋山秀夫、下野幸男、小室藤雄、和田匡史の顔ぶれ。資本金は250万円、福井が筆頭株主となり、代表取締役社長に福井、取締役に佐伯、秋山、下野、監査役に島原八太郎という陣容で、とりあえず葛飾区小菅にある倉庫の一隅を借りて、透明ものの製造販売をはじめることにした。商品名を「ニトロン」（ラッカーの主原料ニトロセルローズからニトロをとって、よい運がつくようにとんをつけた）と決めた。

当時カタカナの社名がやはりはじめていたので、社名もニトロンペイントにとの意見もあったが、万一商標登録ができなかったときのことを考えて、商品名を附さぬ社名をつけようということで、甲論乙駁があった後、我々の本拠地が、昔、武蔵の国とよばれていたのに由来して、武蔵塗料が採用された。

不断の精進の末、玄妙の域に達した剣聖宮本武蔵にあやかりたいという希望が皆の胸中

になかったといえは嘘になる。

マークも現在の原型が決められ、一同は新しいものを生み出す喜びにひたり切った。

◇マークの由来

武蔵塗料の頭文字「む」をデザイン化したもので、塗料製造のシンボル三本ロールを表しています。三つの円は製・販・装の和を、また内にあるのは、従業員・経営者・株主の三つの和、ひいては、天・地・人の三つの和を表徴しています。企業発展の三大要素は、人・物・金であり、そのバランスを保つことが大事です。三つの円が同じ大きさであるのは、そのことを意味しています。

◇創業者の横顔

創業者である福井敏雄（ふくいとしお）は、大正8年9月1日、姫路市に誕生し、昭和16年関西大学卒業と同時に「大日本セルロイド（現ダイセル化学）」に入社、資材畑で活躍し、戦後ダイセルにおける原料経験を生かし、培った人脈の導きもあり、塗料業界に入りました。塗料メーカー「東京三星工業」専務取締役を経て、昭和33年6月独立、武蔵塗料を創立しました。

人間は、問題に対しては常に前向きに取り組み前進する姿勢が大事である。と考え、信念と迫力をもって、自ら進んで難題に取り組み、解決することに喜びを見出し、率先垂範手本を示して、会社をリードしてきました。

「中小企業は映画俳優と同じである。人気が稼業はファンが多いほどスターになって自分の地位も収入も増える。我々中小企業も、会社をとりまく販売店、需要家、原料業者、取引先、銀行、株主というような関係先の支持を得、味方になってもらい、盛り立ててもらうことが、企業が隆昌に向かうことに繋がる。

そのためには、“よし、援助してやろう”という気持ちになってもらうよう、会社の姿勢を正し、えらぶらず、謙虚に辞を低くして、「一生懸命働くことである」と考え、自ら行動を率先する努力家でした。

性格的には、白は白、黒は黒と、ハッキリけじめをつける正義漢で、中途半端、いい加減、ウヤムヤを最も嫌う性格でした。

業界においても、塗料業界の現状を憂い、正常化と業界全体の地位の向上をめざして、リーダーシップをとって、日本塗料工業会（日塗工）理事、企画委員、関東塗料工業組合（関塗工）副理事長、東部塗料工業協同組合福利厚生委員長、日本塗料倶楽部評議員、京浜塗料普及会監査役、日本塗料普及会理事、京浜塗料普及会理事をはじめ、日塗工企画委員、日本塗料普及会企画委員を歴任し、その他業界団体に加入、活躍し業界の信任と信頼を集める存在でした。

これは会社の実力もさることながら、創業者個人の人格、識見によるところが大きいといえます。

☆我社の経営理念

—我社はどんな理想と社風をもった会社か—

1. 経営理念とは何か

人はそれぞれ何らかの夢と希望を抱いて毎日の生活を営んでいます。ある人はより豊かな生活を求め、又ある人は大きな仕事の目標を求め、理想を描いて意義ある人世を送ろうと願っています。つまり、それぞれ自分の生き方の方針をもっています。それははっきりと意識している人も、漠然と考えている人もあるでしょうが、人間は誰でも自分の「信条」や「人生観」をもっているということは間違いないでしょう。

ところで目を会社に転じた場合、会社にも個人でいう「信条」や「人生観」がなければなりません。もちろん“儲ける”が信条だといえばそれまでですが、それだけならちょうど人間が「食うために生きる」という信条だということと同じで、きわめて動物的だといわざるを得ません。これでは折角多勢の人が集った人間集団としての意味はなく、淋しいことです。

やはり、高い理想をめざして経営をしよう、この理想実現のため共に頑張ろう、ということ

ころに大きな意義があるのです。それでこそ人間集団としての値打ちがあるといえます。

このような「会社の理想」「会社の信条」のことを『経営理念』とか『企業理念』とよんでいます。

2. 我社の経営理念

経営理念は、会社の創設者によって明らかにされ、人はかわっても次の世代に受け継がれ脈々と生き続けます。

我社の経営理念は、社是・社訓という形で表されています。この二つをしっかりと理解し、その実現のために我々一人ひとりはいかにあるべきか常に自分の行動に反映させる必要があります。(※現経営理念の文言は、3代目福井修平により1994年に制定されました)

3. 社是

「技術と誠意にプラスアイデア」

これが我社の社是です。この社是は一読してわかるように、塗料製造業に生きるものが決して忘れてはならない恒久的な哲理を実に簡潔にうたいあげています。

その精神とするところは、世の中の信頼、

顧客の信用なくして企業は存在しない。それゆえ我社は社会の人々、塗料を使ったださる人、売ったださる皆様に、高い技術の塗料を誠意をもって、アイデアを添えて提供することにより満足を買っていただく、というところにあります。つまり時代は変わろうとも、常にその時代の要求する質の高い、よい塗料を提供していくのだ。ということなのです。そのことが顧客にも、我社にも共に豊かな実りをもたらすということであり、その喜びを確保していこうということでもあります。

4. 社訓

社是をもっと具体的に述べたものが社訓です。

“我々一人ひとりの社員はいかにあるべきか”という私達自身の立場に立った社員行動綱領ともいうべきものがこの社訓です。

この社訓について、昭和36年の訓示の中で、創業者は次のように述べております。いつの時代にも通用する名言です。

「この社訓については、機会あるごとに充分説明するが、要は一緒に働ける、取引がしていただけるということは機縁である。

機縁とは「いんねん」である。日本の人口1億人の中で縁あって一緒に生活し、又は取

引できることに感謝し、それこそ誠意をもって商業道徳に外れることなく、立派な製品を全員仲良く協力して生み出さなくてはならない。

会社を愛し、自分を愛することは、自分の仕事に興味と、そして真剣さをもつことである。仕事をいやいやするほど馬鹿らしいことはない。何の信念もなく、朝会社へ出てきてただダラダラと時間を過ごし、夕方定時になれば帰る。こんなことでどうしてよい製品ができればか。自分も損、会社も損である。人間は働く以上、あの人がいなくては困るという信頼され、したわれる人間となり、又そうなるように努力することが自己の地位も向上し、きたるべき時代には、会社を背負って立つ経営陣に突入するのだ。

その目的達成のためには、公私の区別、規律を守り、上級者に対しては尊敬の念をもち、自己の技術を練磨し、物の見方、考え方は絶えず科学的にやり、何事もおざなりにせず責任感を強くし、本人も無事故、ひいては会社も無事故であることが大企業に発展する基礎である。

諸君の運命は会社と共にある。この信念を絶えずもって業務に精励していただきたい。」

我が社が、この社是・社訓に恥じない会社で

あるためには、私達自身が担当する仕事にその精神を生かしていかねばなりません。社是や社訓は単なるうたい文句や、スローガンであってはなりません。一人ひとりの「実践」「体現」によって「実証」されなければならないのです。

このように経営理念は、一見我々の日常の仕事と何の関わりもないように考えられがちですが、これは大変な錯覚で、実は私達自身の行動そのもので実践しなければならないものなのです。

5. スローガン

期のはじめに、その年度のスローガンを掲げます。社是・社訓は恒久性のある経営理念ですが、スローガンはその年度に、まず是非達成したいより現実的、具体的な色彩の濃い、身近な努力目標とでもいうようなものです。スローガンは掲げるだけで実行されなければ何の意味もありません。

6. 経営方針

さて、今述べてきた経営理念に基づいて、まず会社の代表者である社長が、会社を経営するに当たって、こういう方針で進みたい、この問題にはこう取り組んでいきたいという

ことを株主に承認を受け、役員と共に施策を決定し、現実の会社の経営方針とか企業方針とかいわれるものが方向としてできあがりません。

出荷数量をいくら、売上金額をいくら達成しよう。経費をいくらに切り詰めて、いくら利益を確保しよう。そのためにはこういう方面の塗料の需要をもっと増やそう、こういう新規需要があるから、それに合う塗料を新発売しよう。そのために工場を一棟増設し、この機械を入れて、この部門に人員を何名増員しよう。というように具体的な数字が示されます。

それによって、営業の売上計画、生産の製造計画、技術の研究テーマ等が決められ、我々はそれに基づいて毎日の業務に就くことになります。

この経営方針をすべての社員が、しっかりと理解し、ひとりの落伍者なくその方針を実行することによって、世間では、あの会社の姿勢はこうだと認識され、それが何代も続くことによって伝統となり、そこから独特の社風（会社の個性・風格・魅力）というものが自ずから生まれます。

7. 我社の組織

人が集まっても、そこに組織がなければ単なる寄り集まりで烏合の衆にすぎません。ひとつの目的に向かって力を寄せ合い、10の力を15に発揮するために組織があります。

我社の組織は、経営方針を達成するため、能率のよい仕事をするために運営されています。

我社は、中小企業のモデルとなるべく、又來たる時代には大企業群に突入すべき抱負をもって鋭意邁進しています。

8. 我社の社員

会社は組織で行動しますが、その組織を動かすのは我々一人ひとりの人間です。会社が発展するかどうかは社員の能力にかかっています。会社が発展すれば、その恩典に浴するのはその社員です。

どういう社員であるべきかを一口でいえば、それは「我社の社是・社訓の精神を身につけ、経営方針を理解し、その実現に向かって自らの使命を貫徹できる能力をもった人材」ということになります。

8-1. センスについて

能力をもった人材についてもう少し詳しく

考えてみましょう。我々が、会社の中で重要な人物として信頼されるにはセンスが重要な点になってきます。

我々凡人は、先輩の足跡をたずね、その指導を仰ぎ、知識だけでなく感覚として、じかに毛孔から吸収してアイデアとし、イメージしなくてはなりません。この作業法でよいのか、これはこうしたらどうだろう、あれはこうすべきだとか、又はこの品質なら、この価格なら、このデザインなら行けるぞ!!と感じ、それを方向づけるのがセンスです。

技術者としてのセンスがない、セールスマンとしてのセンスがないとかよくいわれますが、この感覚、即ちセンスというものは努力と教養によって培われ、生まれてくるものです。朝起きて飯を喰べ、会社へ来て何となく仕事をする。夕方になったら帰る時間ばかり気にする。——これでは機械人間であり、脳なしです。そんな人間ならまだ機械を使う方がましです。

いかにセンスなき人々の多いことか、しかし、アイデアによりイメージを生かし、企業的に大成功をした人々もまた多いのです。イメージ・アイデアにより、企業的にこれなら行けるという方向づけをして進むのは理屈ではなくセンスなのです。

8-2. 企業の革新について

企業というものは、その創立当時の社会情勢とかその時代の感覚とかを把握して計画し、開始されますが、一方社会というものは相当なスピードをもって進歩し、発展しております。そして科学技術の力は月世界への旅行も夢ではなく実現させました。しかるに我々の企業が遅々として進歩発展せず、いたずらに昔の夢を追うようでは、この革新時代には生きてゆくことができません。世の中の変化に対応できない企業の製品は、世の中の必要とする製品とはなりません。

世はまさに技術革新、消費者革命時代であり、益々その推移は速度を加へて進んでいます。我々は全員がこの時代の進歩に遅れることのないよう自己を啓発し、能力を養成し、新しい時代感覚を身につけていかないと社会の落伍者になります。ひとりでも落伍者が出ることは、会社全体が落伍することになります。

一人ひとりがその環境、その進歩に適應する能力を養成し、自分の素質、能力を絶えず錬磨して、社会の情勢に適應する努力は当然ですが、その努力もせず、その考え方も変えられないような人、あるいは会社の発展を自分が阻害していると気がついたときは、

潔くその職を去るくらいの気構えが必要です。それほど現在の業界はシビアであり競争激烈です。

競争ということは、必ず相手方があり、戦いには勝敗がつきものです。勝者のみが社会に生存できます。競争の相手方より何らかの優れた点——品質、価格、サービス——がなければ落伍するだけです。スポーツにはゴールがありますが、企業の競争にはゴールはありません。永久です。前進又前進でなければ負けてしまいます。

8-3. 開拓者精神

創業時代には「自分のために頑張るのだ」「自分がやらなくて誰がやるのだ」「自分が会社を動かすのだ」という、溢れるようなバイタリティ、勇猛心があったからこそ、苦しみを喜びに変え、苦難を乗り越えて、会社の基礎をつくってきました。ところが一応基礎が固まり、業績が安定し、部下もでき、人数も増えてくると、この開拓者精神が忘れられがちになります。これが一番怖いことです。開拓者精神の消えてしまった企業に発展は望みません。

そのためには「これまでと同じ考え方」や「過去と同じやり方」をしていたのでは駄目

で、常に創造性を発揮し、改善に改善、合理化に合理化を重ね、現状を改良刷新し、よりよい職場、よりよい会社づくりに取り組んでいかねばなりません。

つまり我々一人ひとりが“進歩の推進者”であらねばなりません。このような「前進をもたらす考え方」「前進を実現するねばりと努力」が創造性であり、開拓者精神、武蔵魂です。

8-4. バックボーンについて

開拓者精神なくして成功はあり得ません。開拓者精神が全社員に浸透し、発案、ヒント、改革、研究、創作とあらゆる分野にこの精神を発揮し、会社の業績が進展し、社員の生活も豊かになってきますと、自分のためでなく、人のため、社会のために貢献しようという価値ある人間になってきます。

そのためには我々はよい塗料をつくろう、そして塗料を売ってくださる人にも利益を与え、塗料を使ってくださる人にも、なるほど武蔵塗料の塗料はよい塗料だ、この塗料を使えば得であるとわかっていただける塗料をつくることになります。

“我々はよい塗料をつくろう”このバックボーンをもってこそ、信念ある製造ができま

すし、クレームや不良品も発生しません。それが会社の信用となり、世況に関係なく確固たる販売を行ない、業績も向上することになります。

8-5. 社風について

古い歴史のある会社は独特の社風が完成しています。世にいう三井の英才、三菱の組織、住友の重厚といわれるように、会社全体の倫理感が確立し、バックボーンが築き上げられ、それが職場全体のムードをつくり、会社全体をそのムードに包んで、その会社の風格として社会に認められてきます。

しかし歴史が古いだけではよい社風は生まれてはきません。経営理念——即ち社是、社訓、スローガンの精神をすべての社員がしっかりと理解し、開拓者精神、バックボーンをもって、これを日々の行動に実践してはじめて、そこから独特の社風が生まれてきます。

社員が本当に会社の経営理念をよく理解し、そのような素晴らしい会社づくりに自分も参加しているのだ、ということが十分理解されているかどうかは、その会社に一歩足を踏入れた瞬間にわかるものです。特に外部の人々には実に敏感にわかるものです。

我々は、理想に燃える経営理念を実現する

ために、何よりもまず、よい社風をつくり、これを後輩に継承していかねばなりません。

8-6. 人材について

以上述べてきました経営理念を実現し、よい社風をつくるためにはどうしても人材が必要になってきます。

では、会社はどんな人材を必要としているのか、又どんな人材を養成しなくてはならないのでしょうか。

人材であるかどうかの基準を次にあげてみます。(この判定基準は賞罰、昇進や、昇給、賞与にも関係してきますから、すべての条件を満たすよう努力していかねばなりません。)

<人材の判定基準>

A. 判断力

1. 仕事の指示、方針に対して理解が早い。
2. 物の考え方が緻密で筋道がたっている。
3. 事実を度外視したり、軽視した失敗をしない。
4. とるべき処置ははっきり速やかに決める。

B. 協調性

1. 同僚との間で、いざこざや摩擦を起こすようなことはない。

2. 上長に対する報告、意見の具申、応答など常に緊密、適切である。
3. 組織の一員であることを自覚し、全体を考えながら行動する。
4. 先任者として勿体ぶったり、自分を優位に置こうとするようなことはない。

C. 積極性

1. 向上心に富み、新しい角度、着想から仕事の研究をしている。
2. 複雑なことでも、自分から取り組んでいき、何とかやりこなす。

D. 感情の安定性

1. 議論のための議論をしたり、理論に走り過ぎるようなことはない。
2. 個人的な好みや、経験にこだわらない。

E. 注意力

1. 注意力があって、やることにソツがない。

F. 責任感

1. 責任逃れをしたり、他人にこれを転嫁するようなことはしない。
2. 自分のやったことに対しては、最後まで責任をもつ。

G. 交渉力

1. 巧みな交渉要領をもって、円満に話を進める。

H. 仕事振り

1. 無断欠勤をしない。(やむを得ない場合以外は休まない。)
2. 自分の仕事に困いをつくって墨守するようなことはしない。
3. 他人の意見もよく聞き、又自分の考えばかりを強制しない。
4. どんな仕事にも全精力を傾け真剣に取り組んでいる。

I. 素質

1. 管理者として、又は管理者になる素質をもっている。
2. 教養を高め、人格を磨き、豊かな人間性のもち主となるよう努力している。
3. 魅力ある人間として、部下の厚い信頼を得、指導力もある。

J. 知識、技能

1. 関連部課の仕事も充分知っていて、会社全体の立場を考えている。
2. 必要職務知識は、概ね修得している。

- 3.ある点に対し、高い特殊知識、技能をもっている。
- 4.仕事の第一人者となるため、新しい知識や技能をどん欲に吸収。

8-7. 協調性について

人材がどうかの判定基準をAからJまで列举してみました。Bの協調性について、もう少し考えてみましょう。

私達は組織人です。組織は人間一人ひとりの力では達成できない仕事を大勢の力を協働して成し遂げるためにつくられたものです。特に我社は、すでに述べたように高い理想をめざす会社です。「我々の会社を」「我々の手で」発展させるためには、自分ひとりくらいはとか、自分ひとりさえよければ、といった利己主義的な考え方をもつ人は、「同志」として迎えることはできません。

常に会社全体、職場全体の業績や幸福に、自分はどうか寄与すべきか、という観点から物を考え、自分の果たすべき役割を認識し、全体の利益を得るために積極的に上司、同僚、後輩をはじめ、他部門と協調、協働できる人でなければなりません。

これが一流の武蔵社員としての、第一の条件であり、強固な組織力、チームワークをつ

くる基盤です。

9. 企業の終局の目的——創業者の言葉

企業の終局の目的は何であるかを考えるため創業者の言葉を次に掲げます。

企業を続行し、繁栄を図り、会社も個人も人世の幸福をつかむには、絶えず前進しなくてはならぬ。寸時の油断から、あるいは現時点で満足している内に企業は倒壊してしまう。

ゆえに、常に技術革新、販売革新を行ないつつ、開拓者精神をもって、企業に対し、愛と希望と、そして若さを注入し、企業の生命力を旺盛にし、品性を高め、バックボーンを築き上げ、社風を確立し、常に自己の能力の練磨と向上に努力しなくてはならない。

諸君は縁あって、我社に入社し、勤務している。勤務しているということは諸君が好むと好まざるとに関わらず、あるいは、人生に定められた運命かも知れぬ。この運命を開拓し、人生の向上をめざし、最後の大きな勝利を得るためには、努力が必要である。

僅かのお金でキップを買うだけで、軽く楽々と山の頂上まで運んでくれるケーブルカーのごとき科学の発達と人生を結びつけてはならない。人生はそんなに甘いものではなく、ときには泥沼に足をとられてもがいたり、あ

るときは怒涛逆巻く断崖に立たされたり、私自身、長い間に幾多の辛苦をなめてきた。しかし、私は負けずに努力してきた。そしていつか私の生命が消え去ろうとも、企業は決してこの世のある限り、永遠に続くことを確信している。存続させ、発展させることが次代を担う諸君等に課せられた責任である。

諸君は、来るべき時代に、この会社の経営者になり、自分の全能力を発揮して、人類に貢献しようという堅い決意と信念をもって働くことが自己啓発の道である。信念は鋼鉄のレールのごとく堅く、強く不動のものとし、その上を邁進すべきである。

私は重役諸侯に対しても常々言っているし、私自身に対しても、自己革新のための勉強をしている。

- ◆人格の向上を図れ
- ◆統率力を持て
- ◆推進力を持て

この条件が完備しなくては人の頭に立つ資格はない。権力の座は自分でつくるものではなく、人がつくってくれるものである。しかも権力の座は安住の座ではないし、決して座り心地のいいものでもない。

私は、私がか会社に有用でなくなったとき、あるいは会社の発展にとって阻害要因となる状態になったときは、いち早く自分から会社を去る覚悟をもっている。

10. 健全経営のポイント

1. 資金繰り

売掛金の回収は、小額でも遅れていないか

2. 利益確保

採算のよくない販売はしていないか

3. 資金節約

不要在庫、デッドストックをしていないか

4. 過剰投資

不要不急の設備をしていないか

5. 与信管理

代金の支払いは、信用を損なわない程度に
手形とし、売掛金と買掛金のサイトバラン
スをとっているか

6. 企業の安全性

自己資本比率の充実に留意し、経営の安定
を図っているか。

～ 武蔵塗料の生き立ち ～

グローバル企業へ

◇ 3代目社長福井修平の言葉

武蔵塗料が各国に拠点をもつグローバル企業に成長した背景には、3代目社長の福井修平の経営手腕が大きく寄与しています。創業者の思いを受け継ぎつつ、世界のNo.1企業をめざし、「企業ブランド」と会社の「コンセプト」を設定し、グローバル企業としての躍進を図りました。

企業ブランド

武蔵塗料はお客様のご期待に

100%お応えし、

120%の満足を提供し続けます。

1996年に10カ年計画を立ち上げ、それから5期連続増収増益を続けてきた武蔵塗料は、2001年に初めて減収減益となりました。その年、3代目福井修平社長が社員に向けて発表した経営の重要テーマは「お客様の満足度を高める」でした。その後、これは武蔵にと

って永遠のテーマであると考えた福井修平社長は「武蔵塗料はお客様のご期待に100%お応えし、120%の満足を提供し続けます」を企業ブランドと定め、広く社内に浸透させていきました。

コンセプト

『MADE IN MUSASHI』

日本の武蔵から世界のMUSASHIへ。どの国で製造したかという価値ではなく、「MUSASHI」への安心感や信頼感を提供し続け、「MUSASHI」で働いていることの誇りをもち続けることができる会社。

それが武蔵塗料です。

“MADE IN MUSASHI”には、社員一人ひとりの誇りと努力が詰まっています。

2005年の経営計画発表において、世界を本気で見据えた武蔵塗料の数値目標が明確になり、それを達成するために、どのような考え方で全社員が取り組んでいくかを伝えたのが「MADE IN MUSASHI」です。

～ 卷末資料 ～

武蔵塗料グループ連絡先

・武蔵塗料ホールディングス株式会社

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-30-16 グリックビル
TEL : +81-3-3985-8118
FAX : +81-3-3985-0947

・武蔵塗料株式会社 (入間工場)

〒358-0032 埼玉県入間市狭山ヶ原11-2
TEL : +81-4-2934-4131
FAX : +81-4-2934-4134

・天津武蔵塗料

No.20, Xeda Century Road, Xiqing Economic Development
Area, Tianjin, 300385, China
TEL : +86-22-2388-0111
FAX : +86-22-2388-0121

・昆山武蔵塗料

99 Huasheng South Road, Hua Yang Science Industrial Park
in Economic Technique Development Area, Kunshan Jiangsu
215313, China
TEL : +86-512-5764-6975
FAX : +86-512-5764-6978

・蘇州武蔵塗料

150 GangTian Road, Suzhou Industrial Park, Suzhou, Jiangsu,
215021, China
TEL : +86-512-6256-0350
FAX : +86-512-6256-0351

・中山武蔵塗料

1, Hongye Road, Zhongshan Development Zone, Zhongshan,
Guangdong, 528437, China
TEL : +86-760-8531-3570
FAX : +86-760-8531-3270

・上海武蔵塗料

Room1104A Finance Square, No333 Jiujiang Road, Huangpu
District, Shanghai, 200001, China
TEL : +86-21-6841-0358
FAX : +86-21-6841-0258

・香港武蔵塗料

Unit 4, 19/f., Austin Plaza, 83 Austin Road, Kowloon, Hong
Kong.
TEL : +852-2366-3473
FAX : +852-2366-3493

・マレーシア武蔵塗料

No.5, Jalan Canggih 9, TMN Perindustrian
Cemerlang 81800 ULU Tiram Johor, Malaysia
TEL : +60-7861-6688
FAX : +60-7-861-0888

・韓国武蔵塗料

438-43, Daeseong-ro, Samseong-myeon, Eumseong-gun,
Chungcheongbuk-do, 369-833, Republic of Korea
TEL : +82-43-878-7482
FAX : +82-43-878-7596

・タイ武蔵塗料

12A Floor, Unit D, Kamol Sukosol Building, 317 Silom Road,
Silom, Bangrak, Bangkok 10500 Thailand
TEL : +66-2-236-6860
FAX : +66-2-236-6863

・ベトナム武蔵塗料

Plot 227/1 Amata Road, Amata Industrial Park, Long Binh
Ward, Bien Hoa City - Dong Nai Province, Vietnam
TEL : +84-61-8877-010
FAX : +84-61-8877-040

・インド武蔵塗料

p-37/2, 7th Avenue, DTA (Domestic Tariff Area), Mahindra
World City, Anjur Village, Chengalpet Taluk, Kancheepuram
District - 603 002, Tamil Nadu.
TEL : +91-44-4740-5650
FAX : +91-44-4740-5660

・ハンガリー武蔵塗料

H-2840 Oroszlany, Bokodi utca 11 Hungary
TEL : +36-34-586-264
FAX : +36-34-586-265

・USペイント

831 S. 21st Street St.Louis, MO 63103, USA
TEL : +1-314-621-0525
FAX : +1-314-621-0722

行動規範

1. 法令遵守—社会的良識じやうしゆをわきまえて—
 - ・私達はいかなるときでも、徹底して法令を遵守します。
 - ・私達は、各国の法令に基づき、すべてのパートナーと倫理観をもった公平で公正な取引を行ないます。
 - ・私達は、公正・透明・清潔な企業姿勢を維持し、強要や賄賂を含む違法な行為を一切認めません。
 - ・私達は、働いている地域の伝統、文化、歴史を知り、また尊重します。
2. 人権と労働—すべての人の基本的人権の尊重—
 - ・私達は、すべての人の基本的人権と多様性を尊重します。
 - ・私達は、いかなる人に対しても差別はせず、平等に接します。
 - ・私達は、児童の労働及び強制労働に一切関わらず、また、認めません。
 - ・私達は、従業員一人ひとりの能力を十分に発揮でき、働きがいのある明るい職場環境を実現します。
 - ・私達は、従業員の安全と健康を確保できる職場環境をつくります。
 - ・私達は、いつどんな場合でも、全員で協力して働きます。
3. 社会貢献—国際社会から信頼されるグローバル企業をめざして—
 - ・グローバル企業の一員として自覚し、世界各地の事業拠点において調和・共存に努めながら、地域社会の発展に貢献します。
 - ・地域社会と協力しながら防犯・防災活動に取り組み、安全で暮らしやすい社会の実現に努めます。
4. 環境—環境にやさしい塗料づくり—
 - ・私達は、常に自然を大切にすることをもち、地球にやさしい塗料づくり、技術開発、事業活動を行ないます。
 - ・私達は、地球環境を守るための活動に、全員で積極的に取り組みます。
 - ・私達は、事業活動に関わるすべてのパートナーと相互に協力、調和し未来の地球環境を守るよう努めます。
5. 会社財産・情報の管理—確実な資産保全と機密管理—
 - ・私達は、武蔵塗料グループの資産・企業機密や個人情報保護・管理に努め、社内規定に従い適切に取り扱います。
 - ・私達は、武蔵塗料グループの知的財産の保護に努めると共に、研究・開発の際は、他社の知的財産を侵害することのないように十分な注意を払います。
 - ・私達は、他社の機密情報の不正使用・入手は一切行ないません。
6. 安全と品質—社会から信頼される安全な製品・サービスのために—
 - ・私達は、常にお客様の満足を心掛け、信頼に応えられるように、高品質かつ安全な製品・サービスの提供に努めます。
 - ・私達は、社員一人ひとりが誇りをもって努力し、製品・サービスの安全性に関わる法令を遵守します。

早見表

西暦・和暦

1941	昭和16	1951	昭和26	1961	昭和36
1942	昭和17	1952	昭和27	1962	昭和37
1943	昭和18	1953	昭和28	1963	昭和38
1944	昭和19	1954	昭和29	1964	昭和39
1945	昭和20	1955	昭和30	1965	昭和40
1946	昭和21	1956	昭和31	1966	昭和41
1947	昭和22	1957	昭和32	1967	昭和42
1948	昭和23	1958	昭和33	1968	昭和43
1949	昭和24	1959	昭和34	1969	昭和44
1950	昭和25	1960	昭和35	1970	昭和45

1971	昭和46	1981	昭和56	1991	平成 3
1972	昭和47	1982	昭和57	1992	平成 4
1973	昭和48	1983	昭和58	1993	平成 5
1974	昭和49	1984	昭和59	1994	平成 6
1975	昭和50	1985	昭和60	1995	平成 7
1976	昭和51	1986	昭和61	1996	平成 8
1977	昭和52	1987	昭和62	1997	平成 9
1978	昭和53	1988	昭和63	1998	平成10
1979	昭和54	1989	平成 元	1999	平成11
1980	昭和55	1990	平成 2	2000	平成12

2001	平成13	2011	平成23	2020	令和 2
2002	平成14	2012	平成24	2021	令和 3
2003	平成15	2013	平成25	2022	令和 4
2004	平成16	2014	平成26	2023	令和 5
2005	平成17	2015	平成27	2024	令和 6
2006	平成18	2016	平成28	2025	令和 7
2007	平成19	2017	平成29	2026	令和 8
2008	平成20	2018	平成30	2027	令和 9
2009	平成21	2019	平成31	2028	令和10
2010	平成22		令和 元	2029	令和11

重量

グラム	キログラム	オンス	ポンド	匁	斤	貫
1	0.001	0.035274	0.002204	0.26667	0.001667	0.000267
1000	1	35.274	2.20462	266.667	1.66667	0.266667
28.35	0.02835	1	0.0625	7.55987	0.04725	0.00756
453.59	0.453592	16	1	120.958	0.75599	0.12096
3.75	0.00375	0.132277	0.008267	1	0.00625	0.001
600	0.6	21.1644	1.32277	160	1	0.16
3750	3.75	132.277	8.26733	1000	6.25	1

距離

メートル	インチ	フィート	ヤード	マイル	尺	間
1	39.701	3.28084	1.09361	0.000621	3.3	0.55
0.0254	1	0.083333	0.027778	0.000016	0.083818	0.013969
0.3048	12	1	0.333333	0.000189	1.00582	0.167637
0.9144	36	3	1	0.000568	3.01746	0.50291
1609.344	63360	5280	1760	1	5310.83	885.123
0.30303	11.9305	0.994211	0.331403	0.000188	1	0.16667
1.81818	71.5832	5.96527	1.98842	0.001129	6	1

容量

リットル	立方メートル	米ガロン	合	升	斗	石
1	0.001	0.264172	5.54352	0.55435	0.055435	0.005544
1000	1	264.172	5543.52	554.352	55.4352	5.54352
3.78541	0.003785	1	20.9846	2.09846	0.209846	0.02098
0.18039	0.000180	0.047654	1	0.1	0.01	0.001
1.8039	0.001804	0.47654	10	1	0.1	0.01
18.039	0.018039	4.7654	100	10	1	0.1
180.39	0.18039	47.654	1000	100	10	1

面積

平方メートル	アール	エーカー	坪	畝	反	町
1	0.01	0.000247	0.3025	0.010083	0.001008	0.0001
100	1	0.02471	30.25	1.00833	0.100833	0.010083
4046.86	40.4686	1	1224.17	40.806	4.0806	0.40806
3.30579	0.033058	0.000817	1	0.033333	0.003333	0.000333
99.1736	0.991736	0.024507	30	1	0.1	0.01
991.736	9.91736	0.24507	300	10	1	0.1
9917.36	99.1736	2.45072	3000	100	10	1

終わりに・・・

プロジェクト参加者全員が、創業者の想い、会社の成り立ち、成長期の発展を知りました。そのときの想いや経験は、プロジェクトを通じてメンバーへ浸透し、日々の仕事を通じて、今回新たにmusashi colorの言葉として生まれ変わりました。

今、この瞬間から、武蔵塗料の未来をつくるのは私達です。その私達とは、私であり、貴方です。自分を信じて、仲間を信じて、よい仕事を通じて、未来をつくっていきましょう。

そして、武蔵を卒業するとき、よい仲間に出逢えた、よい仕事ができ、素晴らしい会社生活を送れたと機縁に感謝できる人生を社員全員が武蔵塗料で過ごせることを心から祈っています。

最後にプロジェクトに参加してくれたメンバー全員に心からの感謝と信頼を捧げます。

福井 裕美子

musashi color

2015年1月吉日 第1版第1刷発行
2019年4月吉日 第1版第2刷発行
2022年6月吉日 第1版第3刷発行

発行：武蔵塗料ホールディングス株式会社

【プロジェクトメンバー】

浅田 哲也	岩崎 光倫	小澤 清弘
織田 彰吾	風間 治樹	岸 義彦
小林 学	高宮 勲	竹川 泰則
谷口 尚隆	谷本 玲	富田 耕三
長澤俊太郎	中村 圭佑	野村 友美
牧田 竜弥	茂木 一樹	山本 剛
山口 祐雄	李 春澤	

【オブザーバー】

福井裕美子	安部 清
平岡 馨	城所 徳七
福井 陽孝	内田 良二
笠原 一則	

【事務局】

佐藤 大

武蔵塗料ホールディングス株式会社
〒171-0022
東京都豊島区南池袋 2-30-16
グリックビル
TEL：03-3985-8118
無断転載複製を禁ず

Recycled Paper

製造元 株式会社プロスト
〒135-0007 東京都江東区新大橋1-8-7
明祥ビル 4階
TEL 03-5638-0535

氏名	
----	--